



# 一粒の麦

ひとつぶのむぎ



ふれあいコンサート



ギター姿かっこいい!!



芸能ボランティアの方



スイカ割り!!

夏のレクリエーション



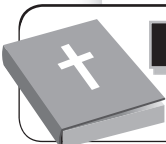
BBQ!!



敬老会



ナイスバッティング



## 聖書のことば

主は絶えず、あなたを導いて、焼けつく土地でも、あなたの思いを満たし、あなたの骨を強くする。あなたは、潤された園のようになり、水のかれない源のようになる。

(聖書 イザヤ書 58章11節)

## ふれあいで思う事

地域福祉課長 塩満 裕子

今年度、4月から、生活介護事業所エデンの園ふれあいに異動になり、半年が過ぎようとしています。私は、4月から、ふれあいでやっていけるかどうか、皆がどう受け入れてくれるのか不安でした。

そして、4月1日、利用者の方が、ふれあいに来所され、「おはようございまーす」と笑顔で、挨拶をして下さいました。「皆さんと一緒に今日からふれあいで活動を一緒にやりますので、宜しくお願いします」と挨拶をすると「はい、宜しくお願いします。」とか「塩満さんとは久しぶりです。一緒にがんばりましょう」と歓迎して下さい、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、宜しくお願いします。

今年の夏は、本当に雨の日が多く、うとうしい日々が続きましたが、ふれあいでは、全く関係ないといった雰囲気、活気に溢れていました。「なぜ？」と尋ねられたら、ここには、「音楽」があるからです。今年9月4日にエデンの園の多目的ホールでコンサートを行いました。年度初めにコンサートを行う事を、利用者の皆さんにお伝えし、曲を決め、練習をしてきました。新しい曲では、ベートーベンの「運命」という曲でした。Kさんが持っていたCDを何度も聞き、曲をアレンジして、職員とKさんが何度も練習を重ねながら曲を作り上げていました。また、他にも加山雄三の「君といつまでも」と言う曲もやはり、Kさんが曲を何度も聞いて、職員と一緒に練習をされていました。練習の期間中は本当に生き生きと楽しんでいる様子が身体から溢れていました。キーボードを担当しているKさんは視覚障害を持った方ですが、目が不自由とは思えない程器用で、音楽の才能を持った方だと思います。他にも、視覚障害をもった利用者の方が2名おられ、Uさんは同じキーボードを担当し、Yさんはドラムを担当されています。とにかく、時間があつたら、楽器を触って練習をされていました。他の利用者の方々は、ボーカル、太鼓、カフォーン、ダンス等を担当し、毎週、月曜、水曜日の午後に練習をしてきました。最初は、参加しなかった利用者の方も、形になって来ると、自ら参加され、最終的には全員参加で練習し、コンサートを行う事が出来ました。コンサート当日は、オリジナルのTシャツに着替えコンサートに臨みました。やや、緊張するものの、曲が流れると自然と体も動き、練習以上に力を発揮する事が出来たと思います。何より、笑顔でみんなの顔が輝いて、何とも言えない達成感を感じた瞬間でもあり、一緒に感じる事が出来たことに感謝の気持ちでいっぱいです。

また、今年度は、作品作りにも一生懸命努力をされ、販売の機会が多く、励みに繋がっている様でした。チラシでこより棒を作り、そのこより棒を使って、肩たたき棒やペン立て、花びん、鍋敷きを作っています。わくわく市inイオンモール宮崎での作品販売(4日間)では、好評で作品を沢山買って頂きました。利用者の方々も大変喜ばれ、益々、作品作りへの意欲に繋がっており、周りの利用者にも刺激され、新たにこより棒を作り始めた利用者の方、更に技術が向上した方もおられます。その中には、視覚障害をもった方もおられ、器用にこより棒を貼り付け鍋敷きを職員と一緒に作っています。こより棒が完成すると両手いっぱい抱えて「ほら、こんなにたくさん作ったよ」と嬉しそうに見せに来られます。初めて作った利用者の方は、中々、上手く作れず「難しいね」と話をされま

したので「私でも難しいですよ。私ならこんなに作れないと思いますよ。毎日、少しずつ練習して、失敗してもいいから作った程ですよ。頑張ってみてくださいね。」とお話すると「うん、頑張ってみる」と笑顔が戻り、何日かして「見て、今日はこんなに作れるようになったよ」と見せに来られ、自信が持てたようでした。利用者と関わる中で、利用者の出来る事を引き出し、伸ばしていく事が私たちの役割だと思います。最初から「できない」ではなく「どうやったら出来るようになるのか」を目標に関わりの中から見つけていく事が大切だと思います。

ふれあいを利用されている方は、グループホームから15名と在宅が2名の計17名が利用されています。ホームから歩いて来られる方や、車での送迎で来られる方が居ます。グループホームでは、普通の家庭と変わらない雰囲気の中で生活されています。ふれあいに来られると、「今日の朝ごはんは、野菜たっぷりのみそ汁と梨だったよ」とか「ご飯いっぱい食べてきたよ」と話しかけてくる利用者、「昨日の休みは、電車に乗って延岡に行ったよ」「イオンに行ったよ」と笑顔でのスタートです。生活の場と活動の場を区別する事で、気持ちの切替が出来、新たな気持ちでふれあいを利用する事ができるのです。

入所施設との違いとして感じるのは、ホームに帰れば、自分の居場所があり、自分の時間が確保されている事ではないかと思います。そして、何をすることも自分で考えて選んでいる事です。もちろん、利用者が一人で考える事が難しい方もおられます。職員としては、利用者にとくさんの体験や経験をしてほしいので、色々な情報を提供し、選択肢を増やす努力をしています。余暇の充実を図る事で、毎日が楽しく、生きがいを持って生活できるようにという気持ちで支援しています。

8月の誕生会の日、今日は、S.Nさんの誕生会、みんなで「ハピバスティ」と歌を唄い、職員や利用者からのお祝いのメッセージを聞きながら、照れて声を出して嬉しそうに笑っていました。そして、本人にマイクが向けられると、涙が一粒流れ、「ありがとう」とはっきりした言葉でお礼を言われ、私は、驚きと感激で胸がいっぱいになりました。以前の彼女は、物静かで、障害が重い利用者の側にいてあまりお喋りをしない人でした。しかし、今の彼女は、私の知っている彼女とは、少し違ってました。泣いたり、笑ったりと感情が豊かになり、グループホームやふれあいは、自分の居場所があつて、話やすく、安心出来る場所になっていたのです。このまま、施設にいたら、今の彼女の行動に気付かなかったと思います。とにかく、彼女は、自分の居場所を見つけたのだと思います。今の生活が更に楽しく生きがいとなっていけるように、利用者の声に耳を傾け、利用者の声を真摯に受け止めながら、これからの利用者の未来と一緒に歩んで行けたらと思います。

